

文部科学省 平成 20-21 年度 大学改革推進等補助金(大学改革推進事業)
「専門職大学院等における高度専門職業人養成教育推進プログラム」

実習到達度を明確にした 実践的指導と評価法

2009(平成 21)年度

最終報告書



奈良教育大学 教職大学院
NARA UNIVERSITY OF EDUCATION SPDE

はじめに

2009(平成21)年11月の教職大学院設置計画履行状況等調査(以下「アフターケア調査」)において、本学の教職大学院は、カリキュラムフレームワークを設定し、すべての授業科目でフレームワークに関連付けた資質・能力を明示し、院生の学びの過程や結果をインターネット上のポートフォリオに取りまとめ、活用している点で全国に先駆ける優れた取り組みであるとの評価を受けました。

この報告書では、第1章において2010(平成22)年度からカリキュラムフレームワーク改訂版を採用すると述べています。実際に行った教育実践を踏まえてフレームワークを修正加筆するということは、“理論と実践の往還”の一つの証左でもあります。また、①授業・教科指導、②生徒指導・カウンセリング、③スクールリーダー、の3つの教師像に分けたフレームワークは、学部教育と関連させながら高度教員養成を展望する意欲的な取り組みと位置づけています。

ただし、教職大学院で必須とされる教育実習については、第2章で述べているように、カリキュラムフレームワークの大きな目標では捉えきれないものがありました。とりわけ、学部卒院生にとっては、授業力をさらに伸ばす必要性も度々痛感したようです。そのことを踏まえて、教育実習独自の評価規準を設定し、それを到達目標にして院生が実習に臨むという方針が立てられ、教職大学院や連携協力校の教員の支援の下で、院生が1年次から2年次までの教育実習において適度の困難性の中で到達可能なレベルを見出す作業を行ってきました。院生の学びをポートフォリオに収集し振り返る過程で、一度はできたと思われた事柄も別の教育実習では十分でなく、課題となったということも吐露されています。このように実践的指導力は、行きつ戻りつしながら、養われていくものでしょう。

もちろん、ここに示した実習到達度は、教職大学院の教員が教育実習における院生の学びを単に抽出し、まとめたものではありません。2008(平成20)年度以来、第3章に示すように、国内外の調査を行い、外国人研究者を招いたシンポジウムを開催したり、全国の教職大学院が一堂に会した教育実習フォーラムも開催し、どの教職大学院でも使えるような教育実習の到達度を案出する努力を払ってきました。

今回の「アフターケア調査」では、多くの教職大学院が教育実習の到達目標の明確化に課題があると指摘されていますが、本学の取り組みは、そのような問題解決のための一つの提案です。また、現職教員院生の教育実習免除審査にも教育実習の評価規準を役立てることもできるでしょう。

とは言え、実習到達度については、巻末のDVDで述べているように、さらに洗練し、活用法を工夫する余地があります。皆さまのご批判やご意見を賜りたいと思います。

平成22年3月

奈良教育大学 学長

長友 恒人

目 次

はじめに

第1章 実習到達度の理論

- 第1節 カリキュラムの枠組み（フレームワーク）と目標資質能力の設定について…… 1
- 第2節 授業力の必要性とその評価規準 ……………10

第2章 実習到達度を明確にした学校実践

- 第1節 授業力ベーシック評価 ……………24
- 第2節 現職教員院生の教育実習免除の審査 ……………35
- 第3節 学校実践Ⅰ、学校実践Ⅱの進め方と成果
 - 3-1 学校実践Ⅰ ……………44
 - 3-2 学校実践Ⅱ ……………50
- 第4節 学校実践Ⅲの進め方と成果 ……………56
- 第5節 学校実践Ⅳの進め方と成果(現職教員院生以外の場合) ……………63
- 第6節 学校実践Ⅳの進め方と成果(現職教員院生の場合) ……………74

第3章 シンポジウムによる共同的な学び

- 第1節 「教職大学院での学び」(2009(平成21)年7月1日) ……………84
- 第2節 「カリキュラムフレームワークによる能動的な学びの創造」
(2009(平成21)年9月17日) ……………90
- 第3節 「教職大学院「教育実習」全国フォーラム」(2009(平成21)年12月19日) ……116
- 第4節 「これからの教員養成を考える～実習到達度を明確にした実践的指導と評価法」
(2010(平成22)年3月1日) ……………127

巻末資料

・2009（平成21）年度

奈良・宮崎両県の「初任者研修対象者の到達度や悩みに関するアンケート」

結果……………131

・付録DVD（シンポジウム「実習到達度を明確にした実践的指導と評価法」収録）

執筆者及び執筆分担一覧

はじめに 学長 長友恒人

第1章 1節 小柳和喜雄
2節 安藤輝次

第2章 1節 安藤輝次
2節 松井秀史
3節 3-1 宮下俊也
3-2 吉田明史
4節 吉村雅仁
5節 粕谷貴志
6節 松井秀史

第3章 1節 池島徳大
2節 吉村雅仁
3節 松川利広
4節 粕谷貴志

巻末資料：アンケート 渡辺良枝

DVD編集 粕谷貴志
